

文教福祉常任委員会意見交換会報告

去る10月10日開催の白山市PTA連合会との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は、白山市PTA連合会の川本会長を初め、副会長、理事の方等、合わせて8名の出席をいただきました。

今回は、「学校と地域の連携におけるPTAの役割について」をテーマとして、意見交換を行いました。その主な内容と意見について述べさせていただきます。

初めに、学校と地域の協働についてであります。

PTA連合会では、親同士や学校とのコミュニケーションを通じて子育てやいじめ問題などの情報を共有し、教育力を向上させていくことを活動方針としているとのことです。

また、子供たちの通学時の安全確保のた

め、見守り隊を含めた地域住民を巻き込んだ取り組みも必要と考えているとのことでした。

しかしながら、連携に向けての取り組みには、地域によって温度差がかなりあるとのことでした。

そうした中で「学校に地域開放ゾーンがあると、地域ともいろいろ交流できる機会ができるのではないか。」「同じ校区の中にある公民館同士の横のつながりができれば、地区や学校行事の情報を共有化することが可能と思う。」という意見がありました。

委員からは、学校と地域を取り持つ地域コーディネーターといった役割の紹介や、PTAと地域の各種組織が懇談会を行ってはどうかという提案がありました。

次に、学校の教育環境についてであります。

教職員の多忙化により、先生と子供の交流が少なくなっていることから「市や県への報告書の様式を統一するなど、教員の事務を簡略化すれば、課外活動への対応もできるようになるので

はないか。」との意見がありました。

また、「北辰中学校は人がふえて教室が足りないが、鶴来中学校は教室が余っている。既存施設を十分に活用するため校区を見直してはどうか。」といった意見もありました。

次に、PTA活動についてであります。

共働きや核家族化などによるPTA活動に参加できない保護者の増加や、活動目的に対する理解不足から、なり手の確保が一番の課題になっているとのことでした。

新興住宅地では保護者同士の交流が少なく、町内会行事も参加者が固定化されていることや、個人情報との関係で学校から名簿がもらえないことから、自力でリストアップしないといけないなど、大変苦勞されている状況をお聞きしました。

一方で、「常に誰かが一つの役をやっているだけで1人1役運動で、新しい役員の手がふえた。」といった事例もありました。

委員からは、美川地区の通学合宿という、子供たちが地域の人々の協力を得ながら、

文化会館などで寝泊まりして学校に通う体

験活動の事例にも触れて、地域内での交流を地道に進めていくことが重要との意見がありました。

以上、主な意見を述べましたが、このほかにも活動上の悩みや地域における教育環境の充実を図るための提案など、多くの御意見をいただきました。家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されている今日、この意見交換会を通じて、学校と家庭、さらには、地域社会を結ぶ懸け橋としてのPTA活動の重要性がますます高まってきていると感じたところでもあります。

以上で意見交換会の報告を終わります。